

津山市史だより

2020.10
第16号



桑山南4号墳の竪穴式石室

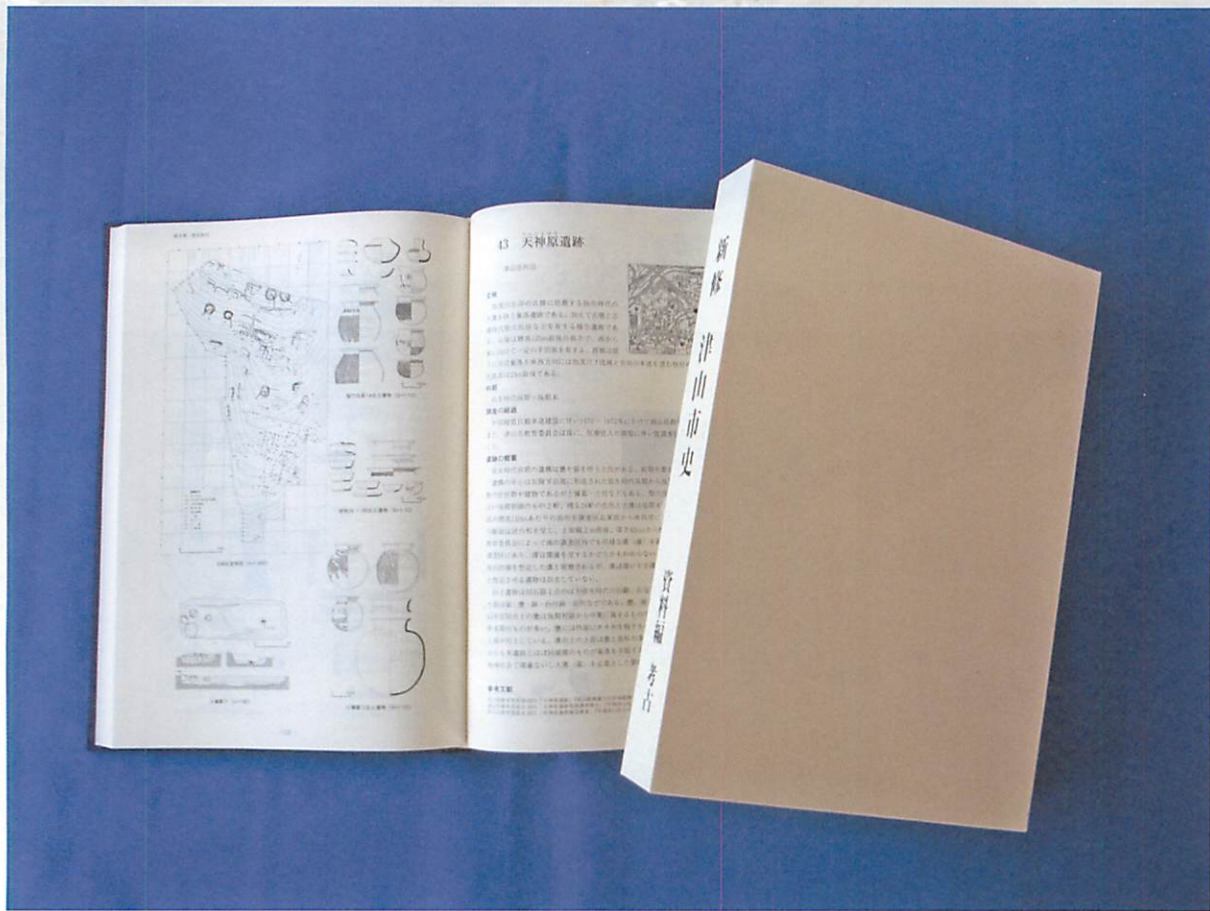
桑山南4号墳は、津山市高尾に所在します。4号墳の周辺には一般国道53号（津山南バイパス）建設工事に伴い、岡山県古代吉備文化財センターが発掘調査を実施した同1〜3・5号墳や桑山古墳群、細畝古墳群などがあります。これら古墳はいずれも後期古墳で横穴式石室の導入前後の古墳で構成されています。

4号墳は、道路建設の敷地外でしたが、地元の駐車場建設に伴い、令和2年3月から5月に発掘調査を実施しました。

本墳は直径10m程の円墳、埋葬施設は竪穴式石室で、全長は3・0m、幅は1m、深さ1・2mを測り、かなり大規模なものです。天井石はすでに失っていましたが、内部の床面から須恵器、馬具、鉄器、玉類などの副葬品が、両小口や側壁付近から出土しました。特に両小口には須恵器の杯を2個並べて枕にしたような痕跡があり、2体埋葬されている可能性も考えられます。須恵器には皮袋形瓶と呼ばれる特異なものも出土しています。本墳は、美作地域で横穴式石室に移行する時期の良好な調査例と言え、今後の調査研究が期待されます。

（小郷）

新修津山市史資料編『考古』を刊行しました



津山市内には、旧石器時代から近世に及ぶ、2,000か所を越える遺跡が確認されています。過去の人々の営みの痕跡である遺跡や出土遺物のなかには、考古学史上極めて重要とされる遺跡や、美作地域の特色を示す遺跡や遺物、また、地域の歴史を研究するにあたって外すことができない遺跡があります。また、数多くの遺跡のなかには、既に開発事業などによって消滅し、現在では私たちが目にするのできない遺跡も数多く含まれています。

本書では、現在の津山市域における考古学上重要かつ特色のある遺跡や遺物を選んで225項目にまとめ、その概要を歴史時代の区分別に整理して文章・写真・図面等によって簡潔に紹介しています。

巻頭には主要な遺跡をカラー画像で掲載。本文では、冒頭に津山市内の主要遺跡やこれまでの研究史、行政発掘をはじめとするこの地域の発掘調査の歩みについてまとめています。

そして、巻末には関係する発掘調査報告書や研究文献の一覧、市内の遺跡一覧、さらに報道記事についても併載し、学術的な使用目的にも耐えることができるよう配慮しました。

言わば、本書は明治時代から戦後を経て現在に至るまでの、津山市における考古学研究や遺跡についての概説書というべきものとなっています。

目次

- 第1章 津山市内遺跡総論
- 第2章 旧石器時代
- 第3章 縄文時代
- 第4章 弥生時代
- 第5章 古墳時代
- 第6章 古代
- 第7章 中世
- 第8章 近世
- 附章



報道記事部分（上）と背表紙（右）

掲載された遺跡の内訳は、旧石器時代10遺跡、縄文時代10遺跡、弥生時代61遺跡、古墳時代109遺跡、古代21遺跡、中世23遺跡、近世15遺跡です。また、本書の執筆にあたっては、発掘調査担当者や専門研究者の協力を得て21名の方に分担してご執筆いただきました。

「遺跡」とか「考古学」とかという表現をすると、少し難解なイメージをもつ方が多いかもしれませんが、本書を通じて、津山地域に住んでいた先人たちの足跡をたどり、当時の暮らしぶりに思いを馳せていただければ、刊行の目的を達することができると考えています。

新修津山市史、本編の第一冊目となります。
ぜひ、一度手にとってごらんください。
(事務局)

- 体裁 A4版 巻頭カラー10ページ 本文633ページ
- 販売場所 津山郷土博物館及び市内書店にて販売します。
- 販売価格 7,000円(税込み)
- 問合せ先 津山郷土博物館
〒708-0022 津山市山下92
電話0868-22-4567

市外発送もいたしますので、郷土博物館までお問い合わせください。

令和元年度第2回編さん委員会

令和2年3月13日 於郷土博物館2階研修室

令和元年度の編さん事業の進捗について事務局から報告し、4月1日に行われる津山市の機構改革により、津山市史編さん室が市長部局へ移管し、総務部付となることを説明しました。また、今後の刊行スケジュールについて総合計画の予算内示とあわせて報告しました。

これに対して、刊行予定が定まっていな
いと執筆者の目標が設定しづらく、円滑な
事業の進行ができないという意見が出され
たため、次期総合計画での事業要求内容に
反映させることになりました。

続いて、通史編の版面を協議・決定し、
市史における文化財等の取り扱いについて
事務局案を提示、今後各部会でも検討する
こととしました。

部会通信

◆自然風土・考古部会

(部会長・河本委員)

通史編「自然風土・考古・古代」の版下
作成に向け各執筆者で執筆及び執筆に向け
ての資料収集を行っています。

年度内に部会を開催する予定で準備を進め
ているところです。

◆古代部会

(部会長・狩野委員、副部会長・今津委員)

9月中旬に資料編「古代・中世」の原稿を
入稿しました。年度末にかけて順次校正を行
い資料編の版下を作成していきます。

◆中世部会

(部会長・久野委員、副部会長・前原委員)

7月26日と8月29日に資料編原稿入稿に向
けて協議を行っております。9月中旬に資料
編「古代・中世」の原稿を入稿し、年度末に
かけて順次校正を行い資料編の版下を作成し
ていきます。

◆近世部会

(部会長・定兼委員、副部会長・在間委員)

新型コロナウイルス感染予防のため、部会
の開催を見合わせています。
博物館資料の個別調査などは引き続き行っ
ています。

◆近現代部会

(部会長・在間委員)

5月に部会を開催する予定でしたが、新型
コロナウイルス拡大のため延期となり、現在

も部会や合同調査は行えない状態が続いて
います。

そのため執筆者の方々には、個別の調査
を進めていただいております。多胡本家酒造所
蔵資料や近代化遺産、鉄道史関連資料の調
査、また、在間部会長が収集してくださっ
た「中国民報」津山関連記事の目録化など
を行いました。

◆民俗部会

(部会長・前原委員、副部会長・安倉氏)

新型コロナウイルスの影響で、高齢者への
聞き取りなどの調査を中止しています。地域
のイベントも中止・延期となるものも多く、
難しい状況です。そのなかでも、地図など
を見て調査できることを進めています。

編さん事業の経過(令和2年3月)

令和2年

3月13日 令和元年度第2回編さん委
員会

3月31日 新修津山市史資料編『考
古』・『津山市史研究』第5

号・市史だより第15号発行

4月19日 中世部会(中止)

5月28日 編さん室事務局連絡会議

7月26日 中世部会

8月29日 中世部会

江戸時代のコレラへの対処法の一例 ―安政五年の津山藩の対応から― 梶村 明慶

はじめに

今年(1862年)は新型コロナウイルス流行により世界的に社会生活が混乱しています。この原稿の執筆時にはまだウイルスに有効なワクチン、または特效薬が世に出ておらず、感染を防ぐ観点から3密(密閉、密集、密接)を避ける方策が呼びかけられ、生活様式の変化が余儀なくされており、一刻も早く有効な治療法の確立が求められています。江戸時代、津山藩でも当時流行した疫病に対し、薬や治療法を指示していることが諸記録に残されています。今回は、安政五年(一八五八)に流行したコレラに対し藩などが奨励した当時の薬や対処法の一部についてご紹介します。

安政五年のコレラ

コレラはコレラ菌によって引き起こされる下痢を主症状とする伝染病で、十九世紀にはしばしば世界的に流行が起りました。日本での最初の流行は文政五年(一八二二)とされ、西日本一帯で流行しました。二回目の流行が安政五年のもので、文政の流行よりも規模が大きく全国に波及し、特に江戸での被害が大きかったとされています(注1)。津山での流行の様子については、残されて

いる記録には具体的な流行の様子の記述が見られないため、どのようなものであったかよく分かりません。ちなみに、国元日記(藩政の意思決定機関の日記)、に記されている安政五年前後の津山藩領(主に美作国内)の人口の出入りを記した数字を見ると、流行前の安政三年は年間の死者は一〇四七人、同四年は一〇八人、流行が始まった同五年は九八五人、翌年の六年は一二六三人と死者が爆発的に増えているという訳ではなかったようです(注2)。しかし、当時コレラを指すものと思われる「暴瀉病(激しい下痢の病気)」や「コロリ」という病名や、その病気に対する薬の処方などの対処法が指示されている記録があることから、津山でもコレラがある程度流行もしくは認知されていたことは間違いないと考えられます。

津山藩による対処薬

このコレラの流行に対し、藩は表御医師に調査をさせ、薬の処方と使用方法に関し、安政五年九月七日付けで触れを出しています。郡代(農村を管轄)の日記に詳細が記されていますので、ご紹介します。

藩の医師から指示された薬は三種類ありまし

た。まず一つ目は「樟脳を酢で溶いたもの」です。配合は酢一合(約180ml)につき樟脳四分(1.5g)で、これを戸口から家の中へ度々撒き、香氣(におい)を絶やさないようにしていると病气から逃れることができるとあります。

二つ目は、「胡黄連」という薬です。これは和名では「せんぶり」といい、一日一人壹匁(約3.75g)をお茶にして朝夕食事の前に飲むとよいとされました。

最後には打粉薬が紹介されています。材料は「白芷」(花独活のこと。根は風邪薬にもなる)、「川芎」(セリ科の多年草。根茎を頭痛、鎮静剤に用いる)、「藁本」(セリ科の多年草。根茎は頭痛、風邪薬に用いる)(注3)、米粉の四種となつています。これらを粉にしてあわせて麻袋に包み、全身に打つと記されています(注4)。

以上の処方は城下町を束ねる町人のトップである大年寄の家に伝わる「御触書控帳」の中にも、同様な記述が確認でき、市郷広くこの対処法が周知されていたようです(注5)。

幕府による対処法

この年、津山藩の対処法の外、幕府からもコレ

ラに対する薬等の対処法が全国に出されており、安政五年八月二十二日に外様大名がご機嫌伺いに江戸城へ登城した際、老中より通達があったことが確認できます。(注6)。津山藩江戸留守居へも同日通知があり、この通達は九月十五日津山へ到着、翌十六日には町奉行、郡代から藩内の町や村へ通達が出されています(注7)。

幕府から出された対処法は、まず予防法としては、体を冷やさず、暴飲暴食を避け、消化のよい物を食べることとされています。また、病気がかかった時は、「芳香散」という薬を服用するのがよいとあり、嘔吐がひどい時には、焼酎に龍腦(フタバガキ科の常緑高大木。心材に芳香物が含まれる。注8)もしくは樟脳を混ぜ、温めたものを木綿の布に浸して手足にすり込み「芥子泥」を患部にはるのがよいとのことです。

この通達に「芳香散」と「芥子泥」の作り方も記されていますので、あわせてご紹介します。芳香散の材料は、「桂枝」(桂、肉桂の枝)、「益智」(シヨウガ科の多年草)、「乾姜」(干した生姜の根)の三種類で、これらを細かく粉末にし調合して時々用いなさいとあります。もう一方の「芥子泥」の材料は芥子粉と罌餈粉の二種類で、これらを熱くした酢に一对一の分量で混ぜ、堅く練って木綿の切れにのばして張るとのことです。また、間に合わない場合は熱い湯に芥子粉のみを混ぜて作って

もよいとされています。(注9)

おわりに

以上、記録に残る津山藩でのコレラの対処法の一部についてご紹介してきました。内容については樟脳や芥子などを家中にまく、もしくは体に入り込む。内服の薬にしてもセリ科やシヨウガ科の植物を原料に用いるなど、香りが強いもので対応しているとの印象を受けます。これらの方法が細菌性の病気に実際どこまで有効なものであったのかはよく分かりませんが、当時の幕府や津山藩などの為政者が当時の医療技術を用いてなんとか病気を押さえ込もうとしていた様子が見て取れます。

注1 「記」安政5年。
注2 前掲注3に同じ。
注3 『徳川実記』と津山藩松平家文書の「江戸日記」・「国元日記」の通達の内容はほぼ一致する。

注1 吉川弘文館『国史大辞典』参照。
注2 いずれも津山藩松平家文書「国元日記」からの集計。

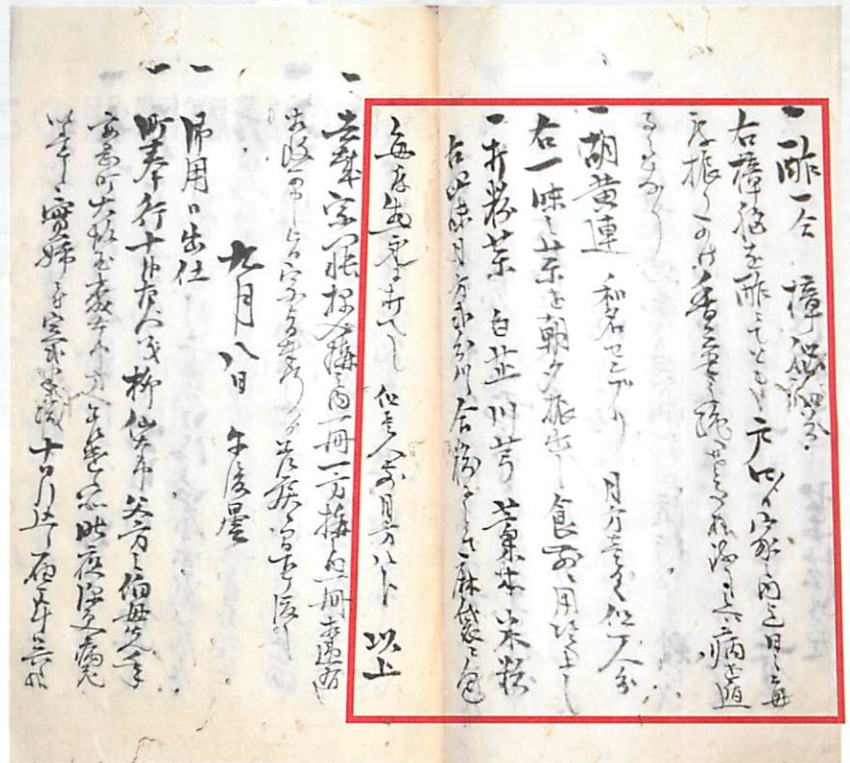
注3 いずれも小学館『日本国語大辞典』参照。
注4 津山藩松平家文書「郡代兼地方引受」安政5年。

注5 玉置家文書「御触書控帳」安政5年。

注6 吉川弘文館『新訂増補 国史大系 続徳川実記』第3編。

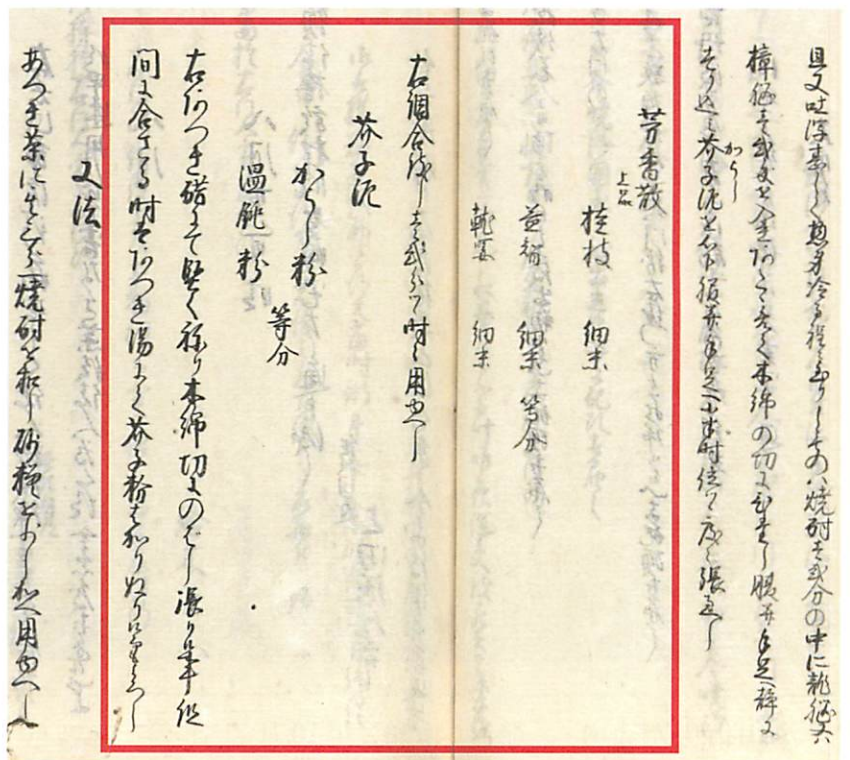
注7 津山藩松平家文書「江戸日記」・「国元日記」

「郡代兼地方引受」・「町奉行御用日記」



郡代兼地方引受（部分）安政5年

一 酢一合 樟脳四分
 右樟脳を酢二てとき戸口方家之内迄日々毎
 度振りかけ香氣之絶へざる様致し候へハ病を遁
 るゝなり
 一 胡黄連 和名センブリ 目方壹匁但一人分
 右一味之葉を朝夕振出し食前二用ひてよし
 一 打粉薬 白芷 川芎 藁本 米粉
 右四味目方式分つゝ合粉にして麻袋二包
 毎度惣身二打へし但壱人前目方八分 以上



江戸日記（部分）安政5年

芳香散
 上品
 桂枝 細末
 益智 細末
 乾姜 細末
 芥子泥
 からし粉 等分
 鰹 粉 等分
 右調合致し壺式分つゝ時々用ゆへし
 右あつき酢にて堅くねり木綿切にのばし張り候事但
 間に合さる時はあつき湯にて芥子粉はかりぬり候而もよろし

美作学講座開催のご案内

今年度も美作大学との共催で、「美作学講座」を開催いたします。新しい津山市史の執筆者の中から近現代編担当の2名を講師としてお招きし、下記の日時・演題を予定しています。なお、今年度は事前申込みが必要です。

第1回 令和2年11月28日(土) 13:30-15:00

講師：山下 洋氏（倉敷市歴史資料整備室副主任／市史近現代編執筆者）

演題：「明治初年の宗教事情」

第2回 令和3年1月23日(土) 13:30-15:00

講師：首藤ゆきえ氏（井原市文化財センター研究員／市史近現代編執筆者）

演題：「明治・大正時代の津山町政」

●会場：美作大学

●定員：50名程度（申込多数の場合、抽選にて参加者を決定いたします。）

※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、予定を変更する場合があります。

●申込み・問合せ先 津山市地域振興部生涯学習課

TEL：(0868) 32 - 2118 FAX：(0868) 32 - 2147

『津山市史研究』第5号発行

3月に発行した第5号の内容は下記のとおりです。創刊号～第4号とともに郷土博物館で販売しています（価格：各号とも1冊800円）

- ・前原茂雄「番台の黄昏
— 美作地方唯一の銭湯・最後の日々」
- ・小西伸彦「津山における鉄道敷設の歴史」
- ・尾島 治「近世内陸城下町の海産物流通
— 津山城下町における新魚町の
魚類販売特権をめぐって—」
- ・資料翻刻「諸国風俗御問状同書上
山陽道美作国農工商之部」

事務局移転のお知らせ

令和2年4月から、市史編さん室事務局が津山郷土博物館から津山弥生の里文化財センターに移転しました。なお、刊行図書の販売等につきましては、従来どおり郷土博物館で取り扱っておりますのでよろしくお願ひします。

市史編さん事業の立ち上げ当初から編さん委員をお務めいただきおりました、自然風土・考古編担当の可児通宏氏が4月25日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

津山市史だより
第16号

発行：令和2年10月31日

編集：津山市史編さん室

〒708-0824 岡山県津山市沼600-1 弥生の里文化財センター内

TEL：0868-22-5820 FAX：0868-24-8414

Eメール：shishihensan@city.tsuyama.lg.jp